

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高校3年	芸術・音楽	音楽I	音楽I Tutti+ (教育出版)	プリント他

## 1. 授業の目標

- ・中学音楽における単元内容を深めた「音楽芸術」の総合的学習。
- ・歌唱や器楽、鑑賞などによって音楽を愛好する心情の育成，自己表現力や感受性の向上，創造的な表現と鑑賞の能力の伸長。
- ・歴史的・文化的背景に基づく音楽文化の理解，個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力の向上。
- ・音楽の持つ美しさやその多様性を感得し，生徒が持つ感受性や表現力の可能性を引き出すことを目標とする。

## 2. 授業のすすめ方

- ・教科書とプリントを併用し授業を進める。
- ・実技指導とテスト，鑑賞感想文，創作等の提出に関してはその単元のまとめのタイミングで行う。
- ・iPadを使用する単元（創作）がある。

## 3. 学習上の留意点

- ・「聴く」，「聞く」態度を大切にする（静寂から音楽は生まれる）。
- ・積極的に授業に参加すること。
- ・忘れ物をしない。
- ・遅刻・欠席などはできる限りしない。
- ・音楽室の備品を大切に扱う。

## 4. 副教材・参考書

- ・資料としてプリントを配付。
- ・クリアファイル等の用意を推奨する。

## 5. 評価方法

- ・実技テスト（歌唱・器楽）での積極的な態度，音楽的であり創造的な表現力を発揮できたか。
- ・鑑賞感想文においては，その楽曲の構成，創作過程における歴史的な背景に興味を持つことができ，適切な感想を書くことができたか（ロイロノートでの提出期限は厳守）。
- ・真摯な態度で授業に取り組んでいたか。

上記の総合評価（実技点 60 点＋平常点 40 点）が成績となる。

## 6. 定期考査

実施なし。

## 7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標		
一 学 期	四 五 六 七	<b>【歌唱】</b> <詩の意味と歌唱表現法・楽式> ○「少年時代」 ・日本語の歌唱と発音法について ○「O sole mio」 ・イタリア語の歌唱と発音法について ○「野ばら（シューベルト）」 ・ドイツ語の歌唱と発音法について ・ドイツリートと表現・形式について ○合唱曲：混声三部合唱曲（予定） ・パートの役割とアンサンブル *歌唱表現について ・発声のしくみ ・発音の方法の違いについて （共鳴と地声） ・音痴とは  <b>【鑑賞】</b> <鑑賞> ○クラシック音楽とは ・ピアノ・ヴァイオリン・オーケストラ の作品より  <音楽史> ○モーツァルトの生涯と音楽 ・映画「アマデウス」からみるウィーン 古典派の時代背景とモーツァルトの 生涯と作品  <総合芸術と音楽> ○音楽劇と演出 ◎ミュージカル「ウェストサイド物語」 ・オペラとミュージカルの違い ・物語と時代背景 ・物語に付随する音楽の表現 ・演技と表現（演出） ・演出と多様性	○【歌唱・合唱】 ・実技テスト   ○【鑑賞】 ・鑑賞レポート ・感想文提出	○【歌唱・合唱】【器楽】 ・音程が正確に取れる。 （記譜通りに歌える） ・歌詞を正確に歌える。 （外国語の場合は発音にも留意している）。 ・曲想に合った歌唱表現をしている。 ・きれいな発声法で歌えている。 ・表現に即した声で歌えている。 ・自分のパートが明確に歌唱でき、他パートとの響きと合わせられる。 ・合唱におけるアクティブラーニングができる。 ・器楽においては、楽器の技能取得や他パートと合奏することができる。  ○【鑑賞】 ・楽曲に関する作品背景や歴史的・民族的・社会的意味について関心を持つことができる。 ・楽曲形式などに関心を持ち鑑賞している。 ・楽器の音色の違いが聴取できる。 ・鑑賞によって発想力や想像力が作品から得られることができる。		
		二 学 期	九 十 十一 十二	<b>【音楽理論】</b> ○音楽の三要素 ・リズム・メロディー・ハーモニー ・形式について	○【音楽理論】 ・レポート提出	○【音楽理論】 ・楽典を理解し演奏や創作に反映できる。
				<b>【器楽】</b> ○iPadを使用した合奏など（予定）。	○【器楽】 ・実技テスト	○【音楽理論】 ・楽典を理解し演奏や創作に反映できる。
				<b>【創作】</b> ○iPadを使用して簡単な旋律を創作する。	○【創作】 ・課題作品提出	○【創作】 ・課題からの発想と、創作上の工夫がみられる。 ・興味をもって取り組むことができる。
		三 学 期	一 二 三	注) 単元の順番は臨機応変に行う。	○【平常点】 ・授業態度 ・出席状況	

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。